

第50期 決算説明資料

(2015年4月1日 ~ 2016年3月31日)

株式会社 **工ノモト**

【会社名】 株式会社 **エノモト**

【英訳名】 ENOMOTO Co.,Ltd.

【証券コード】 6928 **JASDAQ**

【URL】 <http://www.enomoto.co.jp/>

【代表者】 代表取締役社長 武内 延公

【問合せ先】 経営企画部 久嶋 光博

【E-Mail】 ir@enomoto.co.jp

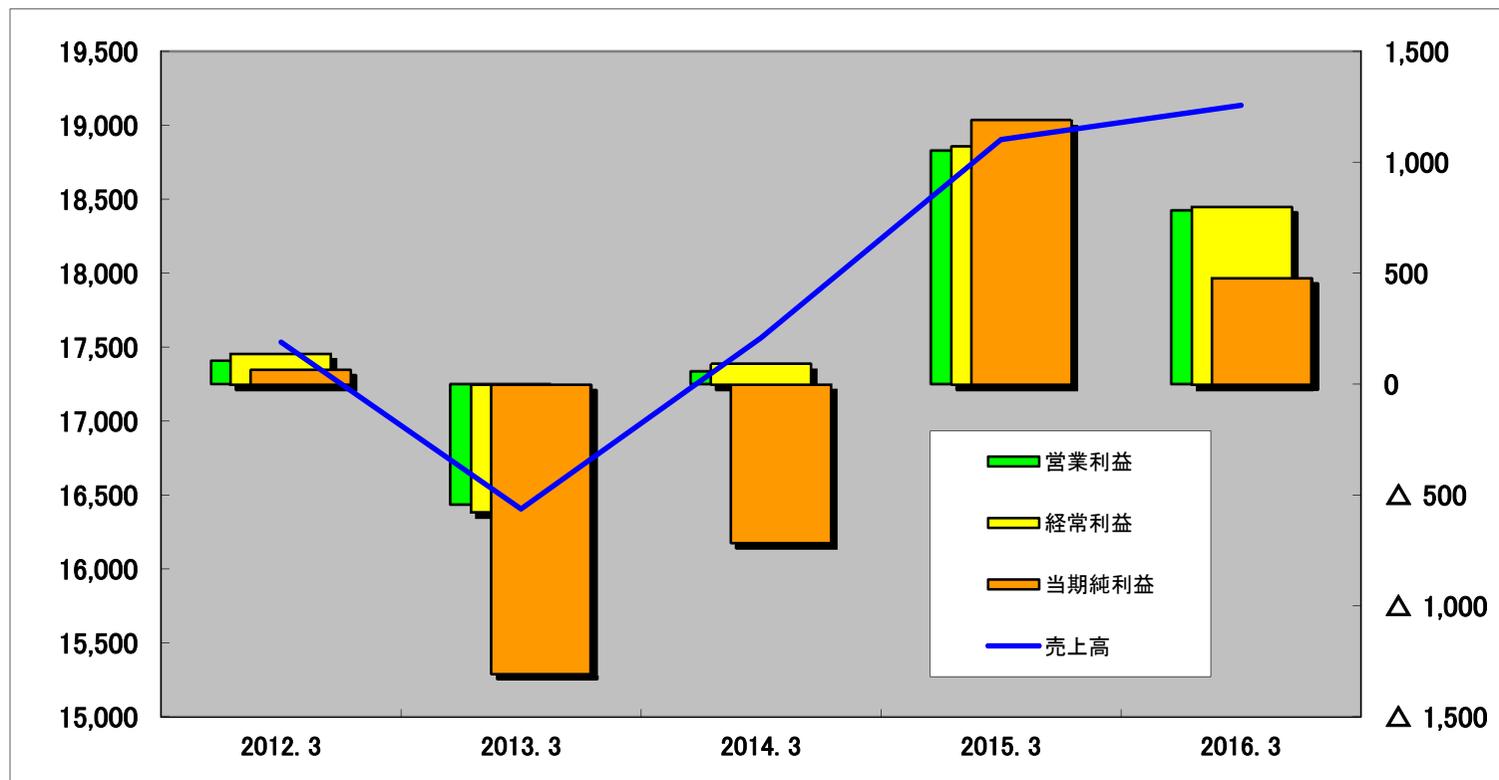
【本社所在地】 山梨県上野原市上野原8154-19

【電話番号】 0554(62)5111(代表)



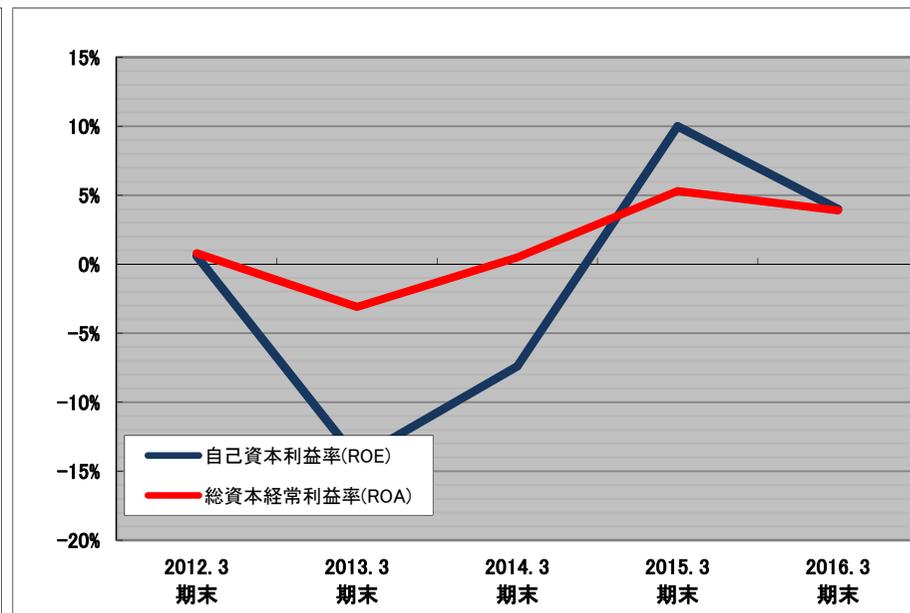
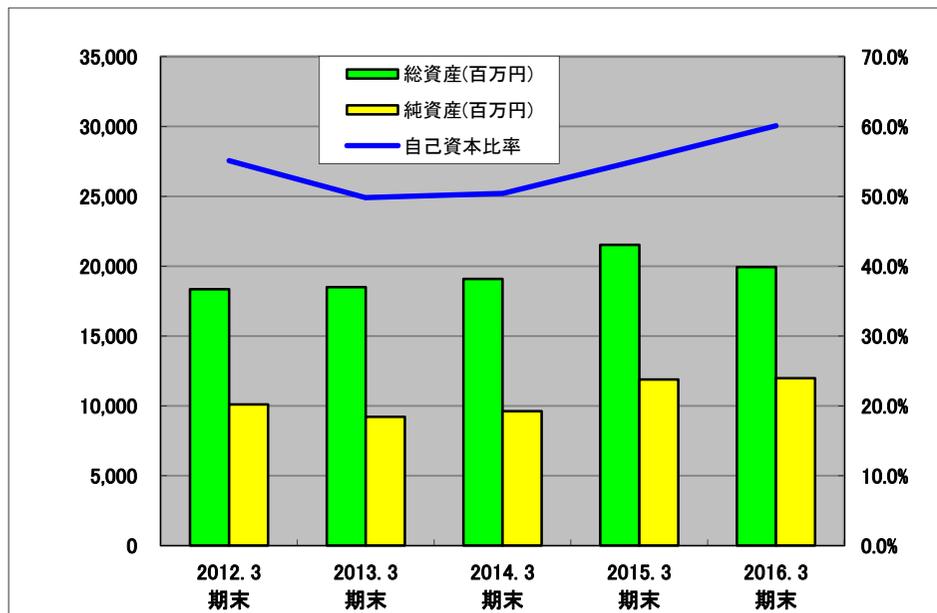
当期のご報告

■ 連結業績の推移



	2012. 3	2013. 3	2014. 3	2015. 3	2016. 3	前期比
売上高	17,533	16,405	17,563	18,903	19,135	1.2%増
営業利益	105	△ 542	57	1,050	781	25.6%減
営業利益率	0.6%	-3.3%	0.3%	5.6%	4.1%	1.4P減
経常利益	139	△ 574	93	1,072	799	25.4%減
経常利益率	0.8%	-3.5%	0.5%	5.7%	4.2%	1.4P減
当期純利益	65	△ 1,300	△ 713	1,189	480	59.5%減
当期純利益率	0.4%	-7.9%	-4.1%	6.3%	2.5%	3.7P減

百万円



	2012.3 期末	2013.3 期末	2014.3 期末	2015.3 期末	2016.3 期末
総資産(百万円)	18,351	18,496	19,089	21,532	19,944
純資産(百万円)	10,103	9,219	9,618	11,894	11,983
自己資本比率	55.1%	49.8%	50.4%	55.2%	60.1%
自己資本利益率(ROE)	0.6%	-14.1%	-7.4%	10.0%	4.0%
総資本経常利益率(ROA)	0.8%	-3.1%	0.5%	5.3%	3.9%

当連結会計年度におけるわが国経済は、先進国向け輸出の持ち直しや大企業の設備投資等を要因として、緩やかな回復軌道を描いていくものと期待しておりました。しかしながら、年初来の円高と株安が消費者マインドの悪化を招き、総じて景気停滞感の漂う中での推移となりました。

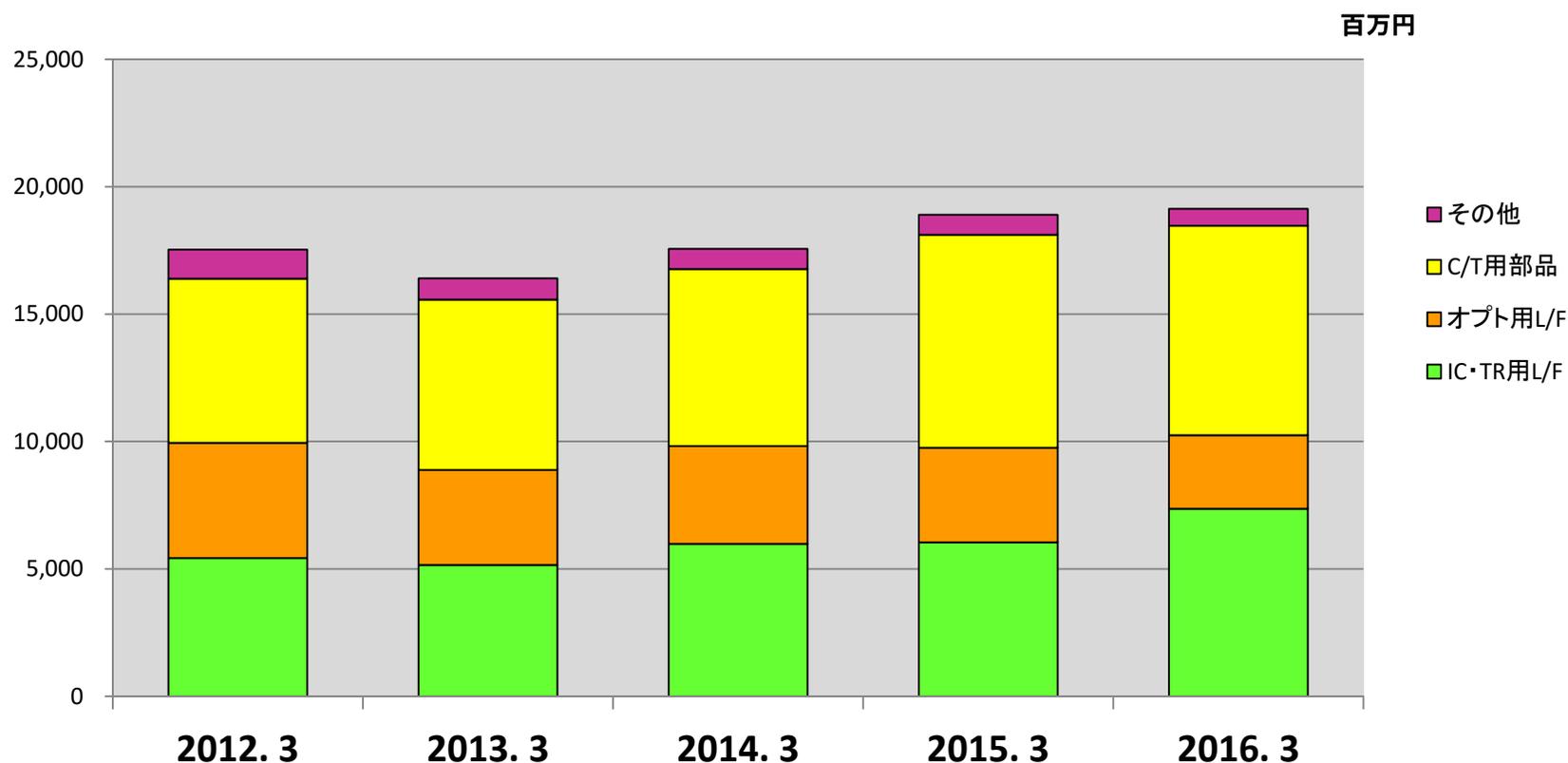
当社グループの属する電子部品業界におきましては、スマートフォンが当業界のけん引役の一端を担ってきましたが、2015年秋発売のハイエンドモデルの減産が続き、成長の鈍化が懸念されております。

また、自動車向け部品につきましては、自動車の電装化率の上昇により、1台当たりの電子部品の使用量は増加しておりますが、販売台数の伸びは当社の期待値には及びませんでした。

このような状況下、当社グループは、徹底的な業務の見直しによる効率化と更なる技術の研鑽により、高付加価値製品の開発に積極的な投資を進めて参りました。

その結果、当連結会計年度の売上高は191億3千5百万円(前年同期比1.2%増)となりました。一方、営業利益は7億8千1百万円(同25.6%減)、経常利益は7億9千9百万円(同25.4%減)、親会社株主に帰属する当期純利益は4億8千万円(同59.5%減)となりました。

■製品群別業績(売上高)



	2012. 3	2013. 3	2014. 3	2015. 3	2016. 3	増減率
IC・TR用L/F	5,425	5,151	5,984	6,040	7,362	21.8%
オプト用L/F	4,522	3,733	3,839	3,717	2,887	-22.3%
C/T用部品	6,444	6,683	6,946	8,356	8,221	-1.6%
その他	1,140	836	792	788	663	-15.8%
	17,533	16,405	17,563	18,903	19,133	1.2%

①IC・トランジスタ用リードフレーム

当製品群は、自動車向け、民生用機器向けが主なものであります。自動車部品の電装化率の上昇により、受注が増加いたしました。その結果、当製品群の売上高は73億6千2百万円(前年同期比21.8%増)となりました。

②オプト用リードフレーム

当製品群は、LED用リードフレームが主なものであります。中国市場向けの大型ディスプレイ用部品の受注が、大幅に予測を下回りました。その結果、当製品群の売上高は28億8千7百万円(同22.3%減)となりました。

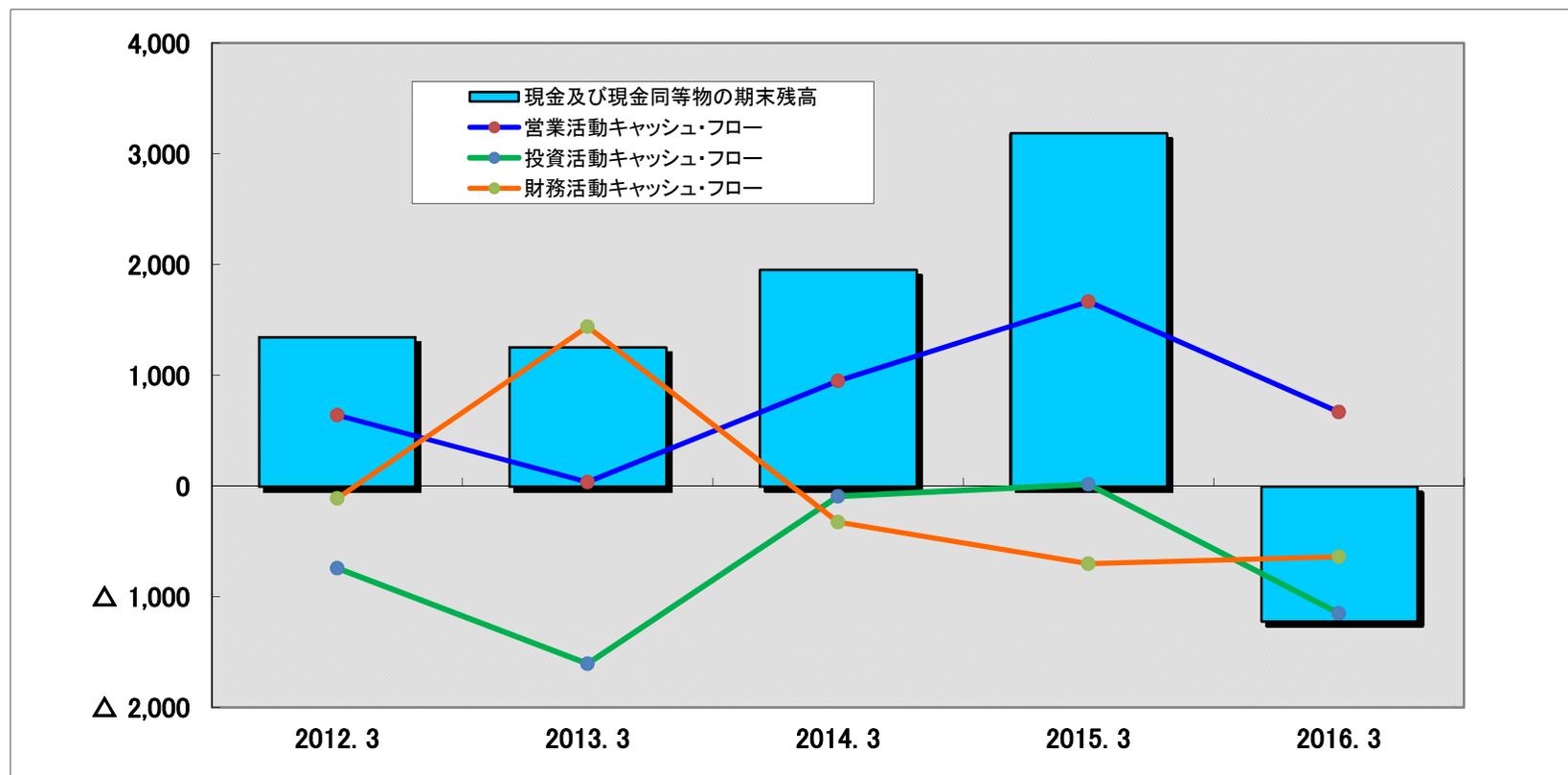
③コネクタ用部品

当製品群は、スマートフォン向け、デジタル家電向けが主なものであります。特に、ハイエンドスマートフォン向け部品が中心であります。販売規模は期待値に達しませんでした。その結果、当製品群の売上高は82億2千1百万円(同1.6%減)となりました。

④その他

その他の製品群としては、リレー用部品が主なものであります。当製品群の売上高は6億6千3百万円(同15.8%減)となりました。

■ キャッシュ・フロー



	2012. 3	2013. 3	2014. 3	2015. 3	2016. 3	前期比
営業活動キャッシュ・フロー	640	36	948	1,666	667	△ 998
投資活動キャッシュ・フロー	△ 743	△ 1,606	△ 94	15	△ 1,150	△ 1,165
財務活動キャッシュ・フロー	△ 112	1,438	△ 326	△ 702	△ 640	61
現金及び現金同等物の期末残高	1,349	1,259	1,953	3,182	△ 1,209	△ 1,209

当連結会計年度における連結ベースの現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ12億9百万円減少し、当連結会計年度末には19億7千2百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

➤ 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は6億6千7百万円(前年同期比59.9%減)となりました。これは主に税金等調整前当期純利益5億4千9百万円の計上及び減価償却費9億6千9百万円による資金の増加、仕入債務の減少6億4千5百万円による資金の減少であります。

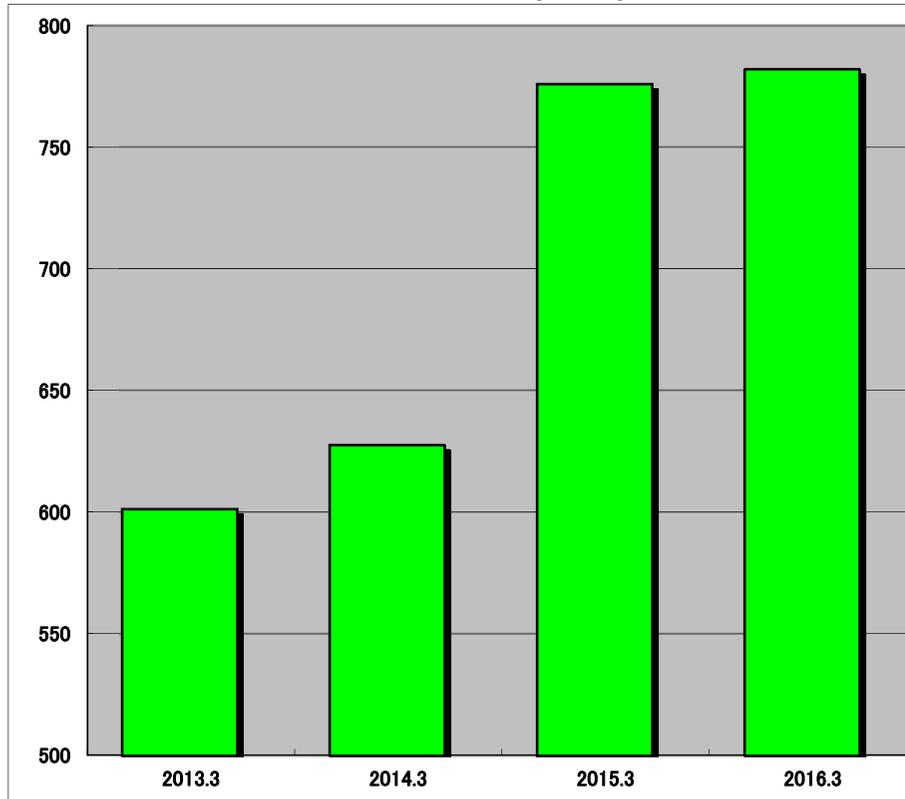
➤ 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は11億5千万円(前年同期は1千5百万円の取得)となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出12億1千3百万円、有形固定資産の売却による収入1億1千2百万円であります。

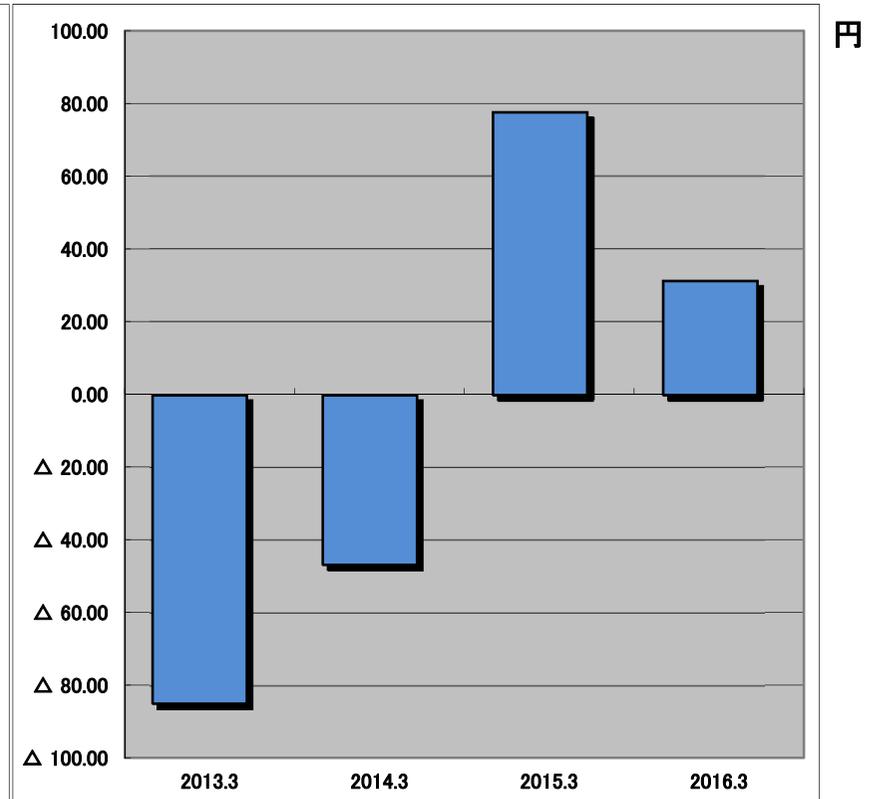
➤ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は6億4千万円(前年同期比8.7%減)となりました。これは主に借入金の純減額6億1千4百万円による資金の減少であります。

1株当り純資産(連結)



1株当り当期純利益(連結)



円

	2013.3	2014.3	2015.3	2016.3	前期比
1株当り純資産(連結)	601.52	627.66	776.22	782.09	0.76%
1株当り当期純利益(連結)	Δ 84.81	Δ 46.58	77.64	31.38	-59.58%

○配当について

当社は、株主に対する利益還元を経営の最重要政策と位置づけており、将来の事業展開と経営基盤強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定した配当の継続を重視し、業績に裏付けられた成果の配分を行うことを基本方針としております。

前連結会計年度より当社グループの業績は回復基調に転じ、当連結会計年度におきましては、提出会社単体でも株主の皆様への配当が可能となる水準の内部留保を確保できました。

当連結会計年度の中間配当は無配とさせていただきますが、期末配当におきましては、当期の業績と配当性向を総合的に鑑み1株当たり6円とさせていただきます。従いまして、当期の1株当たり年間配当金は6円となります。

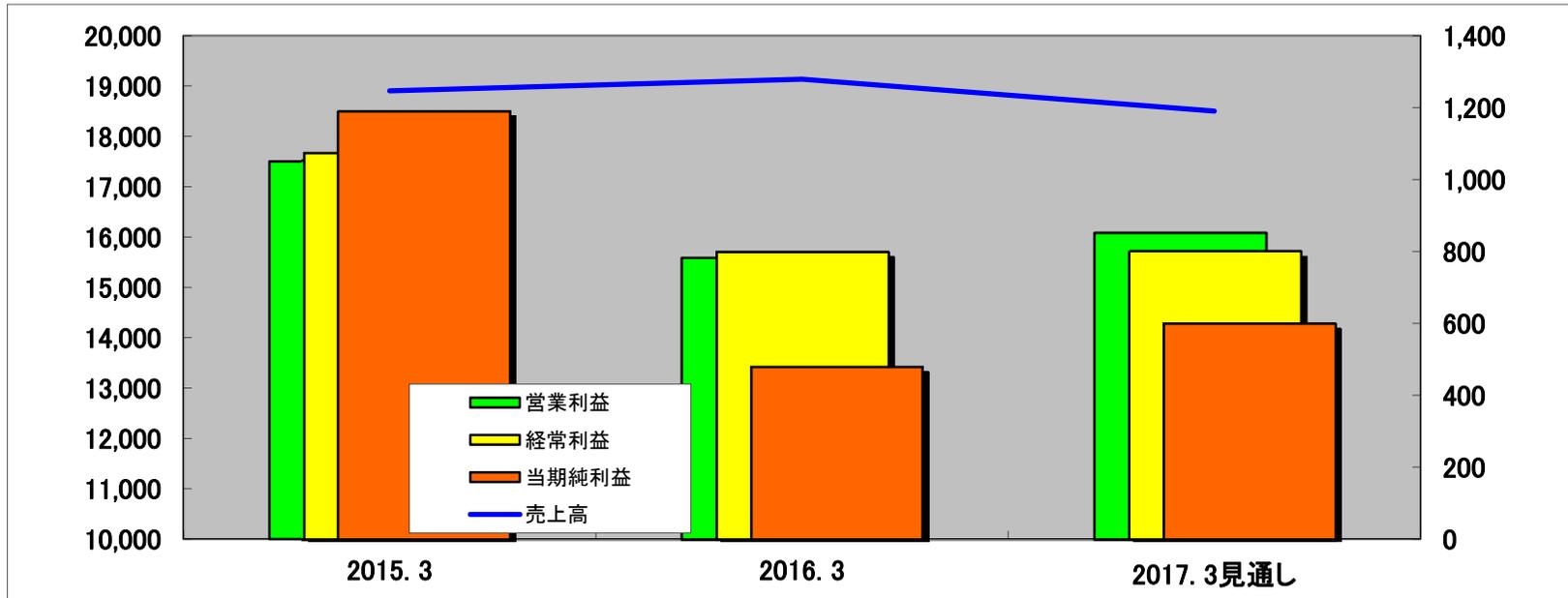
配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産配当 率(連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
27年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00	—	—	—
28年3月期	—	0.00	—	6.00	6.00	91	19.1	0.8
29年3月期(予想)	—	0.00	—	6.00	6.00		15.3	

2017年3月期
の見通し

● 連結

百万円



	2015.3	2016.3	2017.3見通し	前期比
売上高	18,903	19,135	18,500	3.3%減
営業利益	1,050	781	850	8.8%増
営業利益率	5.55%	4.08%	4.59%	-
経常利益	1,072	799	800	0%増
経常利益率	5.67%	4.18%	4.32%	-
当期純利益	1,189	480	600	24.8%増
当期純利益率	6.29%	2.51%	3.24%	-

次期の見通しにつきましては、アメリカ・ヨーロッパ経済は堅調な回復を見せておりますが、中国経済の減速傾向は継続すると思われ、国内では一定の賃上げは実行されているものの、円高や株安といった要素による、先行きの不透明感から、個人消費の回復は緩慢なものになると予想されます。

現在、当社の主力となっているスマートフォン及びタブレット型端末向けのコネクタ用部品の需要は、前連結会計年度のような中国市場や新興国市場における急激な需要増加は期待できませんが、モバイル市場拡大の中心的アイテムであることから、今後も一定の水準は維持するものと見込んでおります。

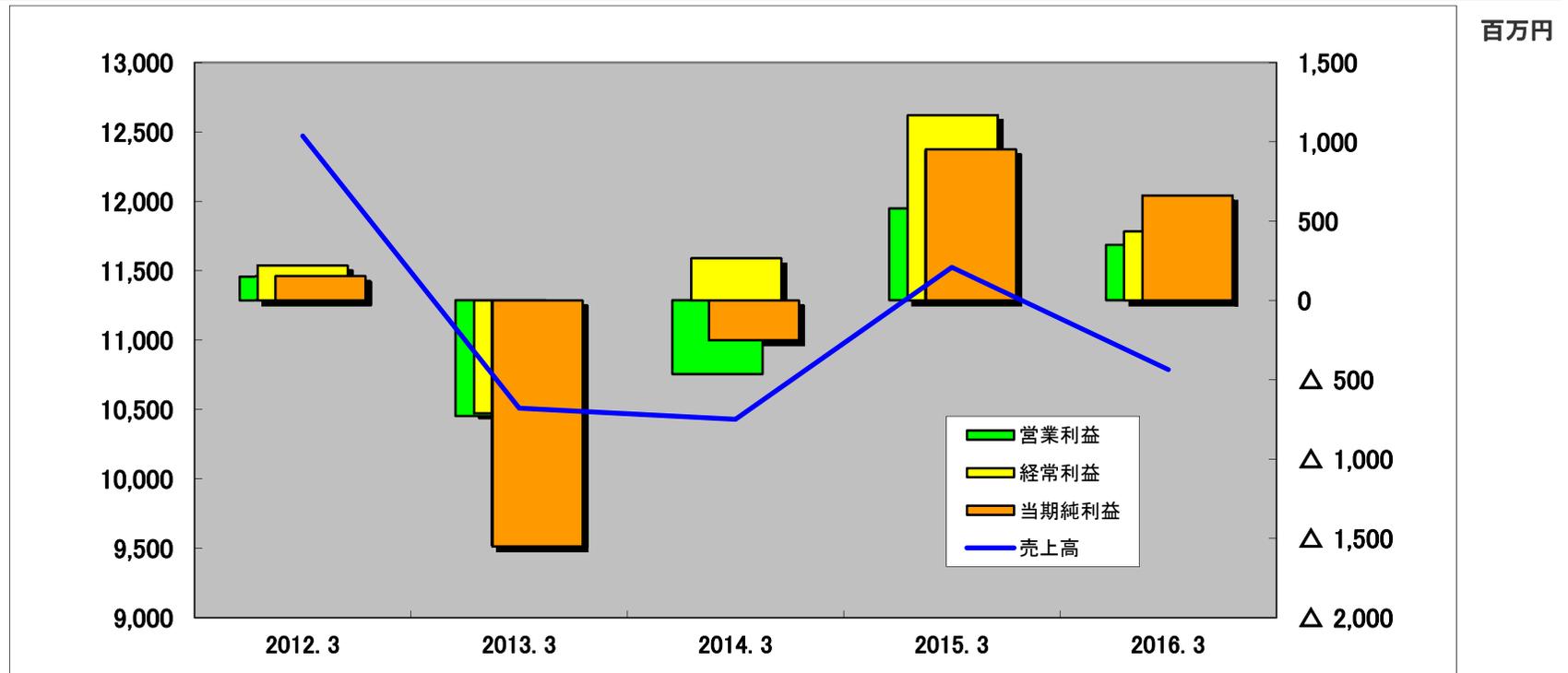
また、リードフレーム部門につきましては、LED用リードフレームの受注環境は緩やかながら回復傾向にあり、自動車向けデバイス用部品も電装化率の上昇から部品点数も増加すると見込まれ、部門全体として堅調な受注量を維持できるものと期待しております。

このような環境下、当社グループは品質改善活動や製造コスト低減の推進をはじめ、当社の強みである金属と樹脂の精密複合加工技術をベースに新規の顧客開拓を積極的に行うなど、全社一丸となって売上及び収益力の向上に努めて参ります。

当社グループの平成29年3月期の通期の連結業績予想は、売上高185億円(前年同期比3.3%減)、営業利益8億5千万円(同8.8%増)、経常利益8億円、親会社株主に帰属する当期純利益6億円(同24.8%増)を見込んでおります。

補足資料

■単体の業績推移



	2012.3	2013.3	2014.3	2015.3	2016.3	前期比
売上高	12,470	10,509	10,429	11,524	10,787	6.4%減
営業利益	150	△ 727	△ 464	576	347	39.8%減
営業利益率	1.2%	-	-	5.0%	3.2%	1.7P減
経常利益	221	△ 708	265	1,164	438	62.3%減
経常利益率	1.8%	-	2.5%	10.1%	4.1%	6P減
当期純利益	153	△ 1,543	△ 249	949	661	30.3%減
当期純利益率	1.2%	-	-	8.2%	6.1%	2.1P減



中期経営方針

新たな価値の創造

～他社が真似のできない
ものづくりを追求する～

2016年度
経営重点テーマ

現状打破

今春、2016年度から2020年度の5年間に当社グループの事業運営の指針となる、中期経営計画を新たに策定いたしました。

旧中期経営方針の主要テーマを維持しながら、当社が培ってきた技術力を最大限に活用し、更に上のステージへ踏み出していくための決意を込めたものとなっております。



経営方針の初年度にあたる2016年度の経営重点課題としては、【現状打破】を掲げました。

旧来の技術・事業分野・慣習・体質等に囚われず、経営資源の有効活用及び、効率化を促進加速することにより、新たなビジネスモデルの確立を図り、更に上のレベルの経営品質を目指して参ります。

当社グループが対処すべき課題としては、下記の4点であると認識しております。

① 人材確保と育成

当社グループの経営理念にも有ります通り『経営の中心は人』であり、培ってきた技術力の継承と発展を担う、特に若い世代の技術者の確保と育成は恒久的な課題であります。国内外を問わず、様々な募集活動による、より幅広い人材の確保と、社内外の研修やOJT教育を組み合わせた育成により、対処して参ります。

② 新たな分野へのアクション

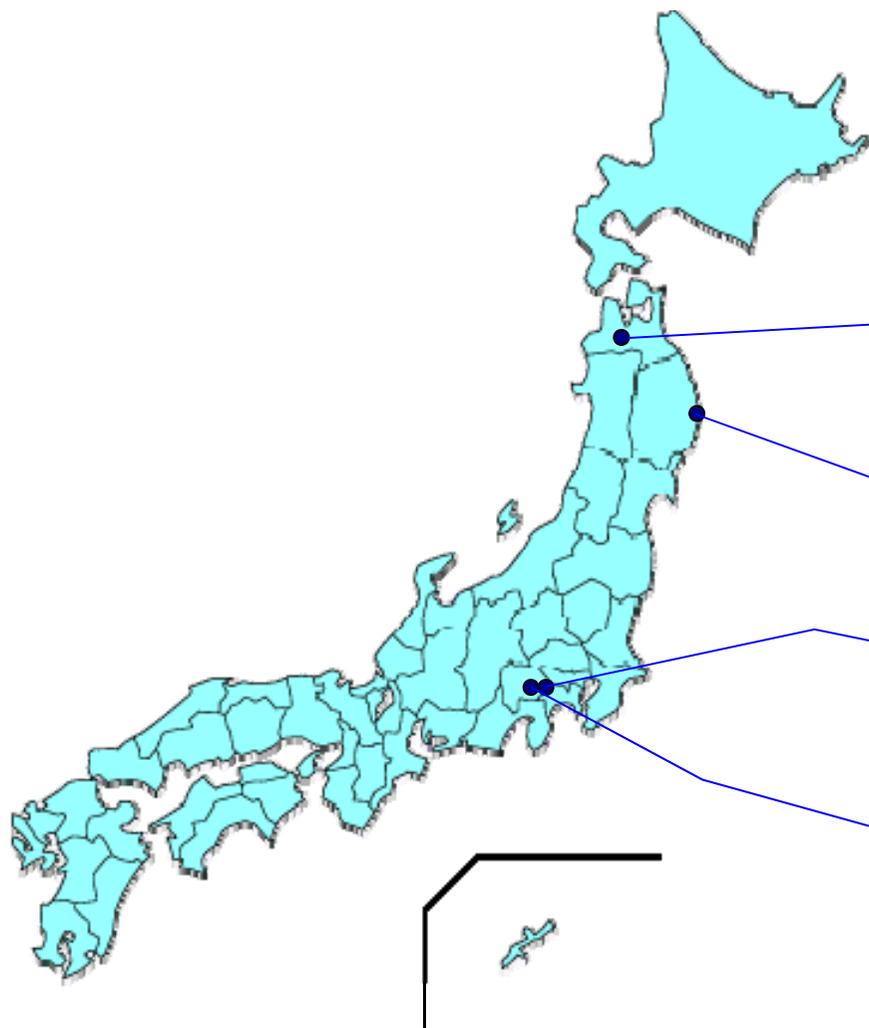
当社グループは、従前の事業のカテゴリーに囚われず、技術力や生産能力を生かせる分野への進出と、その準備について積極的に取り組んで参ります。

③ 生産効率の向上

従前より取り組んで参りました、製造工程の改革を継続致します。特に、効率化・自動化・省人化の推進に重点を置き、生産コストの一層の削減を目指して参ります。

④ 海外生産の拡大

昨年、新たにカビテ第2工場が竣工致しました、ENOMOTO PHILIPPINE MANUFACTURING Inc.を中心に、生産拠点の海外移転を推進し、生産の効率化と顧客サービスの充実を図って参ります。



・津軽工場

青森県五所川原市大字漆川字玉椿191-1
TEL.0173-33-0570 FAX.0173-34-5206

・岩手工場

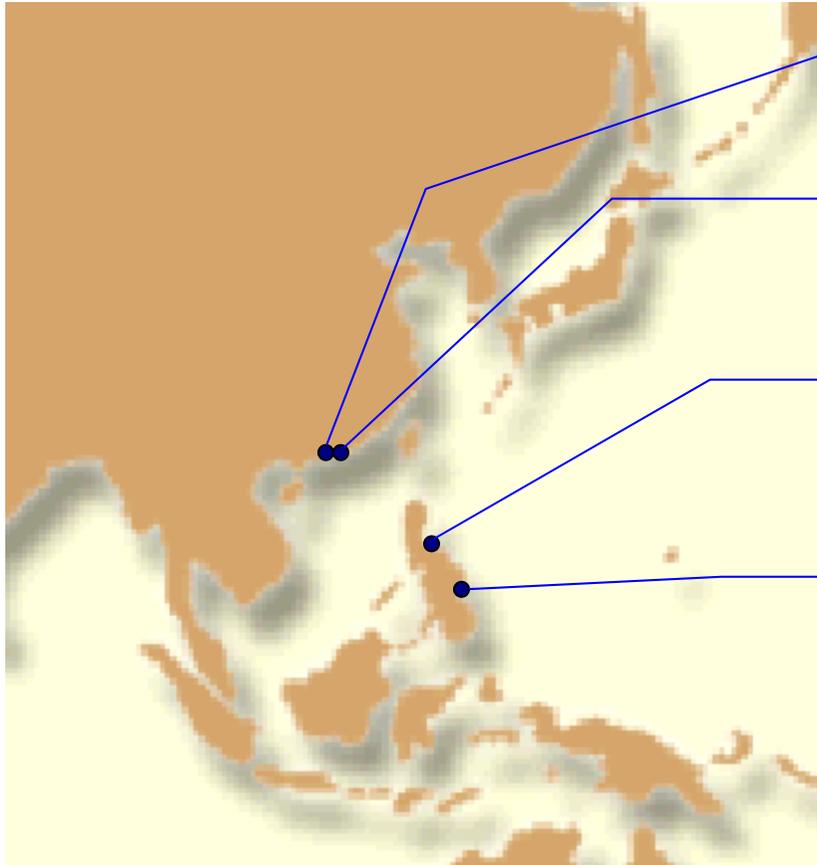
岩手県上閉伊郡大槌町大槌第10地割39
TEL.0193-42-8511 FAX.0193-42-8513

・本社/上野原工場

山梨県上野原市上野原8154-19
TEL.0554-62-5111 FAX.0554-63-4193

・塩山工場

山梨県甲州市塩山熊野666
TEL.0553-32-1111 FAX.0553-32-1159



▪ **ZHONGSHAN ENOMOTO Co.,Ltd.**
広東省中山市火炬開發区逸仙工業区
TEL.+86-760-8533-5111 FAX.+86-760-8533-5113

▪ **ENOMOTO HONG KONG Co.,Ltd**
香港九龍梳士巴利道3号星光行1805室
TEL.+852-2199-7848 FAX.+852-2199-7918

▪ **ENOMOTO PHILIPPINE MANUFACTURING Inc.**
PEZA-Gateway Business Park Javalera Gen.Cavite Philippine.
TEL.+63-46-433-0263 FAX.+63-46-433-0264

▪ **ENOMOTO PHILIPPINE MANUFACTURING Inc.**
CEBU OPERATIONS
Cebu Light Industrial Park, Special Economic Zone, Washington Road,
Basak, Lapu-Lapu City, Cebu, Philippines 6015
TEL.+63-32-341-2223 FAX.+63-32-341-2228

注意事項

事業の展望、業績予想等の将来の動向にかかる記載につきましては、歴史的事実ではないため、不確定な要素を含んでおります。

現在入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因により予想と異なる結果となる可能性があることをご了承願います。

ENOMOTO Co.,Ltd.